

# TPiCS レポート

毎号 毎号ですが、今回は **TPiCS-VIII** が出来ました。

そして、**2000年対応**も完了しました。

Windows 版の**完全32ビット化**も完成間近です。

**Oracle版** 及び **MS-SQLサーバ版**の発売は、  
今回のレポートにとっておこうと思います。(笑)

レポートを発行する度に 新製品や バージョンアップ  
の連絡をしています、ついてくるユーザーさんも大  
変だろうと思います。

この1~2年、Windows の大きな流れに翻弄され、  
生産管理面の機能強化に入魂できませんでしたが、復  
帰第一弾が、このVIIIです。

VIIIの開発に着手してから 9ヶ月、実は途中3ヶ月の空  
白期間がありましたので、実質半年で これだけのもの  
を作ってしまった。

それを思うと、弊社が生産管理面の機能強化に全力を  
向けられなかったこの1~2年、日本の製造業が いか  
に大きな損失を被ったかが分かります。(笑)

SQLや、32ビットも結構ですが、私としては 一刻  
も早く、自動平準化の大幅機能強化や、本格的複数  
ロケーション、さらにオプション仕様や組み合わせ仕  
様の扱いなど、TPiCSでなくてはできない仕事をし  
たいと思っています。

## 今回のテーマ

- 新発売 TPiCS-VIII のご案内
- IVVIIバージョン3 (2000年、郵便番号7桁対応) について
- 最新バージョンのインターネットからのダウンロードについて(お知らせコーナー)



先日 ある産業用機械のメーカーさんが、今後の社内シ  
ステム構築について相談に来られました。

そちらの会社は 量産系の部署では ずいぶん前から  
TPiCSをお使い頂いていますが、今回は個別系への  
対応がテーマです。

「私どもの業界には世界中の7~80%のシェアをも  
つガリバー状態の競合他社がありまして、そこがほ  
とんど即納体制をとっているのです。

普通 産業機械だと、受注後3~4ヶ月後の納期が一  
般的だと思うのですが、ウチの場合 ユーザーが、“次  
のボーナス商戦前に作りだめ”とか“新製品がヒッ  
トしたので増産”とか言って“すぐ納品してくれ”  
とってくるのです。

製品が高価な物ですし、ユーザーごとに少しずつ仕  
様が異なるので、在庫を持つことが出来ないのです。  
当社では、即納が出来ないものですから“お客様の  
ニーズにあった木目細かな対応をして...”などと言  
っていますが、ユーザーにとってみれば 多少の不自  
由はあっても即納してくれる方が有り難いのでしょ  
うね!

そこで、当社も“納期半減”を目標に大改革を行う  
ことになりました。

ご多分に洩れず、我々の部門は 製番管理を行ってき  
ました。

しかし、“納期半減”を考えると いつも二ノ宮さん  
がレポートで書いているように 限界があります。

そこで当社の量産系の部門で利用しているTPiC

Sを見て、これなら何とか行けるかもしれないと思  
ったのですが、私一人では自信がありません。

また 他の人間も説得しなければなりませんし、さら  
に 個々違う物を作らなければならないのも事実な  
ので、技術的にそれをどう解決するか、相談に乗っ  
て欲しいのです」と

おっしゃいます。

まさに“我が意を得たり”の話題です。

しかし、出図との関係、部品や材料の手配、外注さん  
の事情、社内作業と据え付け調整工事と人員配置の問  
題 など、詳しくお話を伺ううち、確かに無理難題の山  
に いつしか お互い もとの製番の考え方に戻ってし  
まいます。

「スケジューラーと呼ばれるようなソフトは検討した  
ことはありませんか？」

「ええ！ 実は〇〇社の××というシステムを使った  
ことがあるのですが、だめでしたね。

綺麗に表は印刷出来るし、例えばクリティカルパス  
が太く目立つように書かれたりして、最初は喜んで  
使ったのですが。なんて言いますか“スケジュール  
表を印刷しておしまい”という感じで、管理として  
生きてこないのです。

実績が入らないからでしょうか。

所詮 生産管理屋用のシステムではないのか と思い  
ました」

「難しいもんですね」と、人ごとのように。

「我々が欲張りすぎているのでしょうか？  
計画の変更があった時、すぐにその影響が解るだけでも有り難いし、今 どうなっているのが解るだけでも価値がある訳です。  
おまけに 必要な部品の発注伝票が出れば、それだけで充分です」

「いやチョット待って下さい。  
いつも聞く製番信者の話になってしまいました。  
例によって “ドタバタがパソコンのディスプレイで見える” というストーリーですね」

「本当ですね。  
これでは現状のままです。  
いまのままでは だめなのです。  
我々は なんとかしなくてはならないのです」

どちらともなく、お互いに叱咤激励の議論をします。  
「では 発想を換えて、とにかく T P i C S を使う前提でどこまで行けるか考えてみましょうか。  
C A D からは構成データをテキストファイルに書き出せるとおっしゃいましたね。  
それなら、そのデータを仕様が変わる毎に取り込めれば良いですね。  
取り込む機能は T P i C S にありますから、抹消する機能だけを考えれば良いです。  
データを増やすことはすぐ考えますが、よく消す仕組を忘れてしまいます。  
増やすのは簡単ですが、本当は消す仕組の方が難しいですね。  
幸い、データ件数はそれほど多くないので大丈夫だと思います。」

狭い意味で技術的には問題無いと思います。  
あとは、f-MRPでどこまで効果が出せるかです。  
f-MRPそのものの話は、ご存知だからいいですよ。アー！ 実際に始める時には、このラインから実施するのが良いと思います。  
いつも言っているように 立ち上がり時期は データは出来るだけ少ない方が良いでしょう。  
もうすぐ T P i C S -Ⅷが出来ますし、そうすれば 製番の機能もあるので、まだ社内に残っている製番の考え方とも正面からぶつからなくて済みますね」

ご自身が “今の状態を改善したい” という気持ちを強くお持ちでしたので f-MRP の路線で頑張ることが出来ましたが、そうでなければ従来通り製番の路線に戻ってしまう所でした。  
最近 研修会では

「T P i C S はたかだか 90 万円のパソコンで動くソフトです。  
90 万円のソフトを買っただけで、ただそれだけで工場が巧く回る筈はありません。  
ユーザー自身が、本当に **もっと速く、安く、レスポンス良く、しかし、安定した生産をしたい。**  
と思った時、T P i C S は役に立つように作ってあります。  
是非是非そのようにお考えいただいて、T P i C S を使って頂きたいと思います」  
と ご説明しています。

### ●インターネットで T P i C S の最新版をダウンロードできるようにしました。

T P i C S もご多分に洩れず、インターネットです。  
しかし 今の所、私は “ホームページを作って情報発信しよう” などとは全く考えていません。  
T P i C S のシステムをアップロードしておき、いつでもユーザー様が最新版のシステムをお使い頂けるようにすることだけを考えています。変更連絡書も 閲覧及び ダウンロードできる様にしました。  
Q & A も 近々 閲覧したり、ダウンロードできるようにする予定です。

I D 番号とパスワードを用意しましたので、T P i C S ユーザー様及び S I 様は、弊社にお問い合わせ下さい。  
パスワードは時々変更しますので、その都度ご確認下さいますようお願いいたします。  
U R L は <http://www.tpics.co.jp> です。

今後は、出来るだけインターネットからダウンロードして頂きますよう お願いいたします。  
なお 他のホームページとのリンクは、ありません。

### ●DOS版の T P i C S -Ⅷを発売します。

価格は、Ⅳ Ⅶと同じ 90 万円 (D O S 版) です。  
T P i C S -ⅣやⅦからの交換は、当分の間インターネットでのみ行います。(F D は、97 年 1 月から発送予定)  
Ver2.3 のⅣやⅦからのデータコンバータもアップロードしましたので、一緒にダウンロードして下さい。  
マニュアルは郵送いたしますので、F A X でその旨ご連絡下さい。

Windows 版の T P i C S -Ⅷは、もう暫くお待ち下さい。

### ●2000年対応 (Ver3) をリリースします。

T P i C S のⅣⅧⅧⅧ J 系の 2000 年対応版を、D O S 版 Windows 版 共に、Ver3 と呼ぶことに致します。  
Ver3 は、Ⅷからスタートし、順を追って ⅣⅦⅧ J もリリースします。  
O r a c l e 版 MS-SQL サーバ版や、32ビット版も Ver3 からスタートします。  
これにより Ver2.4 は、消滅します。当然 Ver2.4 で持たせた新しい機能は、Ver3 が全て引き継ぎます。  
Ver2.3 のデータを Ver3 のデータに変換するコンバータも作りました。  
Ver3 へのバージョンアップも 当分の間インターネットでのみ行います。

Ver 3としての新しいマニュアルは まだ印刷されていません。  
現在は、簡単な変更点の説明書だけです。  
マニュアルを一新する時、Ver3.1として再スタートする予定です。  
Windows版のVer 3も、順を追ってリリースいたします。

なお 今回から、無料バージョンアップの期間を限らせて頂きます。  
今から1年後 97年9月末までを、無料バージョンアップ期間といたします。  
それ以降は、有料になり また旧バージョンのサポートも行いません。

●Windows版TPiCS-IVⅦ、Jの中国語版が完成いたしました。

Visual Basicのソースもメッセージ部分を全て集め、集中的に置き換え作業が出来るようにしました。  
これにより、英語等他の言語へも簡単に移植することが出来るようになりました。

●研修会に、2回目 3回目 無料で受講できます。

仙台、東京日立、名古屋、大阪の各会場では、同一会場に2回目3回目の受講をする場合、その会場に空き席があれば無料で受講出来ます。その分 途中でついてこれなくなった方に遠慮しなくて済むようになります。しっかり予習してきて下さい。なお 巣鴨会場はいつも満員であることも含め、無料にはなりません。

●ISO9000、PL法対応とTPiCS-ⅧⅦ講習会のお知らせ。

株式会社ジャストアイティ（神奈川県厚木市）で、ⅧⅦの講習会（1日コース）が開催されます。

① 内容：ISO9000 PL法対応とⅧ、f-MRPと製番管理 その実務と運用、ⅧⅦ実習

② 日程：10月24日、11月15日、12月6日（各10:00~17:00）

③ 費用：15,000円

④ 前提知識：TPiCS-IVの基本的な使い方を修得している人。

◇ 弊社と株式会社ジャストアイティとの契約により、ユーザーの現場での導入指導が格安で受けられます。

●東京から日帰りの場合3万円/日、前泊必要な場合5万円/日（交通費 宿泊費 テキスト代 各実費別途）

●TPiCS出張教育4日間、モデル作成5~7日間

◇ 初級独習マニュアル（5,000円）が同社から発売されています。

●徳島県庁経営金融課で、県内の製造業10社（年商11億~132億）を集め、「パソコンを活用した生産システム研究会」が9月から97年2月まで5ヵ月間（13日）の予定でスタートしました。

内容は、TPiCS-IVを主体に基礎から自社のモデルデータ作成までです。

講師は 株式会社ジャストアイティの 3名のコンサルタントの方々です。

●TPiCS-Freeについて

- 「TPiCS-Free完全攻略本」著者の高本秀行さんが、インターネット上に「生産管理コンピューティングのページ」をオープンしました。FreeのQ&Aを中心に掲載し 月曜~金曜 毎日更新予定とのことです。Freeのダウンロードも出来ます。

## 新発売 TPiCS-Ⅷのご案内

ISO9000及びPL法により、製造工程の履歴管理のニーズが高まってきました。

また「嫌いだ、嫌いだ」と言っても製番管理のニーズが強いことも確かです。

Ⅷは、その両方を片付けてしまおうという欲張ったシステムです。

Ⅷの基本はIVです。

IVの速いサイクルで物を作る仕組を出来るだけこわさず、しかも履歴管理と製番紐付けが出来るようにしたシステムです。

TPiCS-Ⅷには、製番管理の機能もありますが、やはり最も大きな特長は、原材料や部品及び製造工程の履歴を管理する機能を持っていることです。

TPiCS-J (Ver3)と一緒に使って頂ければ、原材料部品から出荷先まで全てにわたりトレースすることが出来ます。

### TPiCS-Ⅷの製番管理の機能

従来のTPiCS-IVと全く同じ機能 考え方で、所要量

計算をし、伝票発行 部品手配を行っていきます。

しかし、実績をインプットする時、

- 原材料ロット番号という項目を設けましたので、受入れ時にそのロット番号をインプットします。

勿論 必要の無いアイテムは 不要です。

逆に、アイテムによっては 必須の設定をすることも出来ます。

アイテムマスターの“G”を 1にします。

- 社内の製造工程の場合、社内の製造ロット番号をインプットすることも出来ます。

●社内の製造実績をインプットする時、使用した原材料のロット番号をインプットすることが出来ます。構成表に登録した原料が次々窓に表示され、使用したロット番号を選択します。

使用量もインプット出来ますので、ここでインプットした使用量で原料の引落が出来ます。

アイテムマスターの“引落区分”を 3にします。

- J (Ver3)でも、出荷実績をインプットする場合、出荷した製造ロット番号をインプット出来ます。

これにより、原材料から 出荷まで、全ての工程にわたり紐付けすることが出来ます。

●原材料と製造工程の紐付けは、多対多の紐付けが可能です。

1回の生産に複数のロットの原料を登録することができ、また 逆に 1つの原料ロットは複数の生産に使われることが出来ます。

#### TPiCS-VIIIの製番管理の機能

IVと全く同じ様に、所要量計算し伝票を発行します。生産計画表が先に存在し、それに対し製番の色づけをします。

受注データからの色付けでも、単なる製造オーダーでも、見込製番でもとにかく色付け紐付けを行うことが出来ます。

生産計画は、IVと同じ早いサイクルで回し、事後処理として製番を振ります。

Brainは勿論 VIIも“先に製番ありき”で、製番を決めてから展開が始まります。

しかし、VIIIでは、生産計画は製番とは無関係に動かし

ます。勿論、実際の使い方としては製番を先に決めてもかま

いません。システムのデータの動かし方が、製番と離れた所で先に生産計画を計算し、あとから製番を振って行くという意味です。

●製番で展開したいアイテムを指定します。

アイテムマスターの“S”に 2もしくは 3をインプットします。

●製番の頭になるアイテムと、製番、完成予定日、数量の他、出荷予定日や、得意先 納入場所等、受注面のデータも必要ならインプットできます。

これを、ロット番号付番元データと呼びます。

●Jの受注データを読み込み 付番元データにすることも出来ます。

●付番元データから製品構成データにより、ロット明細データに展開します。

その時展開されるのは、アイテムマスターの“S”の値が2あるいは3のアイテムだけです。

●ロット明細データを注残データに引き当てます。

●製番は、追加 キャンセル 時期の変更 数量の変更等いつでも出来ます。

また 引き当て時に、まだ確定されていない為注残データがなく、引き当て出来ない場合も、あとから何回でも再引き当て出来ます。

●引き当て時点の製番と注残データの結びつきを、実績インプットの時 変更することが出来ます。

これにより、製番と注残データが結び付けられ、製番ごとに“どこまで出来ているのか”“何が遅れているのか”“製番ごとの原価は”等、製番ごとに知ることが出来ます。

## TPiCS-IV、VII、J Ver 3 (2000年、郵便番号7桁対応) について

いささか唐突の感がある Ver 3 ですが、ことの始まりは 2000 年対応です。

「何だか外野がうるさくなかったので、ここらで 2000 年対応をしておこうか！」

始めは、Ver2.3 或いは Ver2.4 のなかでやるつもりでございました。しかし 2000 年対応にする為には、データファイルのレイアウトが変わるため、色々な面で影響が多く そう簡単ではないことに気がきました。

また Windows 版は、Oracle 版 SQLサーバ版、あるいは 32ビット版と、新しいラインアップが ぞくぞくと出始めます。

ごちゃごちゃして来たため、2000 年対応版を区切りに一度線を引こうと考えた訳です。

バージョンの区切りということで、一度リリースすると普段は変えにくい 書き出すテキストファイルのレイアウトなども変えさせていただきます。

本当は“手配区分”など、分かりにくい用語を改善したり、原価区分と伝票種類の扱いなども整理したかったのですが、VIIIとの絡みで それらは取り敢えず従来通りの仕様でリリースします。

今後マニュアルを一新する時、Ver3.1 として 化粧直ししたいと思います。

### (1) 2000年対応にしました。

これと同時に、郵便番号7桁化も実施しました。

また、33 担当セクションマスター等の会社名や住所の桁数も大きくしました。

英語の住所表記で不足することがあったのを改善しました。

### (2) アイテムマスターで、最大ロットサイズをインプット出来るようにしました。

ロットまとめ方法を 8,9,18,19 に設定すると、その数を超える生産の場合、前倒し生産する様に計算します。

### (3) 所要量計算を途中で終了できるようにしました。

ネック工程の調整を行う時等、所要量計算を最後までする必要がない場合があります。

所要量計算は、親子レベルが小さいアイテム(上の階層)から順次行いますが、どこまで計算すればよいかを、**[11]** 生産計画表 **[F3]** 所要量計算 の窓の中で設定出来るようにしました。

親子レベル、手配区分2、アイテムコード、製造担当の項目を指定することができます。

所要量計算中、窓の中で指定されたデータに到達すると、所要量計算が終了します。

### (4) **[12]** 作業量計画 のデータの種類を増やしました。

従来 **[11]** 生産計画表の データだけを基準にして集計して来ましたが、注残データベース、あるいは 伝票データベースの集計も行います。

(5) **14** 稼働カレンダーの表示を変更しました。  
カレンダーとして未登録のものは白表示されます。

(6) **25** 買掛元帳で 経理システムとの関係用の  
テキストファイルを出力できるようにしました。  
**CTRL+F**により、経理システムへ買掛データを書き  
出します。

現時点では 勘定奉行 のみの対応ですが、今後 様子  
を見ながら 他のシステムにも対応していく予定です。

(7) TPiCS-Jの **21** 実績インプットのレイア  
ウトを変えました

IVや VII と同じ様な表示にしました。

実績区分 には、訂正・抹消時に 今表示しているデ  
ータの実績区分が表示されます。

現区分 には、現在登録しようとしているデータの実  
績区分が表示されます。

その他、機能・操作方法等は従来と同じです。

(8) **11** 生産計画表 での 稼働日・休日の表示を改  
善しました。

生産計画表で、各アイテムの製造担当が使用するカ  
レンダーに従い、稼働日・休日の表示(反転表示)を  
するようになりました。

(9) **15** 在庫情報 で、当月値の再集計が出来るよ  
うにしました。

実績インプットの度に、**15** 在庫情報の当月実績数  
を加算するほか、注残・実績データから当月実績数  
を再集計出来るようにしました。

(10) IV、VII、Jでも VIIIの様に 受注データと生産  
データを結びつけて管理出来るようにしました。

計画面、実績面 共に紐付けが可能です。

(11) “管理しないアイテム”を、ストラクチャ管理  
の目的だけで使用出来るようにしました。

計画及び実績データには、全く表れないように設定  
出来るようにしました。

(12) 処理条件ファイルを自動的にバックアップ出  
来るようにしました。

最大10世代に渡ってバックアップを取れるように  
しました。

(13) データ構造を簡単にしました。

1つのファイルの中の 各フィールドは、同じ型のデ  
ータだけが存在する様にしました。

また、Ver2.3 あるいは 2.4 の場合、後からの追加  
機能の為のデータには 無理な使い方をしていたも  
のもありましたので、整理しました。

(14) DOS版は、EXE ファイルを分割しました。

プログラムが大きくなった為、分割しました。

(15) 処理条件ファイルの名前を変えました。

ローカルのIV用VII用の処理条件ファイルを共通 (VIII  
も同じ、TPiCS.CNT) にし、  
サーバ用を NET.CNT に変更しました。

しばらくぶりにパソコン関係の展示会に行って来ました。

普段 業務時間中 私は、絶対外出しないので、土曜も開催している展示会にしか出向けません。

幕張で催された WORLD PC EXPO 96です。

何年か前のコンピュータ関係の展示会では、“ダウンサイジング”と“PC-LAN”一色でしたが、今回は“インターネット”“イントラネット”です。

良く言われる「日本人の…」でしょうか? とにかく ご苦労さまなことです。

しかし 弊社も“イントラネット”と言われれば「今度はTPiCSも“イントラネット”対応にしなければ」と  
思います。

したり顔して、批判めいた言い方をするのは簡単ですが、むしろこれは“人間の本性+ビジネスの本性”だと 私  
は思っています。

それにしても、次から次へ ろくに消化出来ないうちに新しいものが出て来ますから、日本中が O-157 の感  
染状態のまま 突っ走らされているようです。

Windows 化の波とは、ユーザーから見ると「パソコンの画面が綺麗になり、マウス一つでパソコンを操作出来る  
様になった」でしょうが、パソコン業界に与えた影響及び 効果は非常に大きなものです。

- 安いDOS/Vパソコンが増え、PC98の寡占状態が崩れました。
- パソコンユーザー数が増え、パソコンの値段が安くなり、さらに処理スピードが速くなりました。
- ソフトウェア技術的には、MS-DOSの世界では出来なかったことが 可能になりました。
- 技術的可能性とマーケットが広がり、またマルチメディア化が進んだため 業界の裾野が広くなり、実に多種多様な“もの”が出現しました。それにともない 技術環境 開発環境が 非常に複雑になりました。

パソコン業界の歴史を簡単に振り返ってみると、

① 黎明期 (誕生から BASIC まで)

趣味 或いは 一部の好奇心の強い人だけのものでした。

② MS-DOSの時代

この時代が 5~6年続いたでしょうか。

一応環境的にも整い、何とか使い物になるソフトが出そろった感がありました。

TPiCSは①から②への切り替わり時期にスタートしました。

当時、ハードディスクは非常に高価なもので、10Mで2～30万円、確かこんな値段で買ったと思います。その頃から、TPiCSはハードディスク上で動くことを前提に作りました。

### ③ NetWare の時代

日本では、NetWare の時代が非常に短期間でした。バブル崩壊と同時に、ダウンサイジングとネットワーク化の波が一気に始まりました。

私は、業務系のコンピュータ利用技術的には、Windows 化よりネットワーク化の方が、桁違いにメリットが大きいと今でも思っています。

TPiCSは、このブームが始まる3～4年前つまり NetWare286 の時代から NOVELL を使っていましたので、この波は楽勝で乗り切りました。

### ④ Windows の時代

業界的には ネットワーク化とは、比べようもないほど大きな波となっています。

しかし、私は、Windows 化が業務系システムに与える効果は、殆ど無いと思っていましたので、取り組み開始時期を1年間違えてしまいました。出遅れてしまいましたが、ようやく取り戻せた様に思います。

### ⑤ インターネット、イントラネットの時代、とでもいうのでしょうか？

イントラネットは、TPiCS も対応しなければと思いますが、正直なところ まだ実感が湧きません。

世の中どんどん進化し、便利になって行くのは 真に結構なことです。

しかし その余波を受け新しいアーキテクチャの上で 実際のアプリケーションに仕上げなければならない我々としては、多少しんどさを感じてしまうのも 正直なところ事実であります。

となります。MS-DOS 時代が割と長く安定した時代でしたが、Windows 時代は まだ始まったばかりで、まだまだ 混迷が続くのではないかと、覚悟を決めています。

Windows95 が発売された時「Windows95 がやったことは、マックのまねをしたことだけである」などという、負け犬の遠吠え的な議論がありました。私は「だからこそビル・ゲイツはすごい」と思っています。それほど新規性のないもので、世の中の人をこれだけ動かせるのだから “すごい” と思う訳です。

当初「Windows3.1 は 従来のパソコンでも動きます」と言われてきました。

確かに PC 98 の上でも、Windows3.1 は 動作はしました。しかし、これは結果論として全くの嘘でした。

いま 3年前4年前のパソコンで Windows を動かしている人は、皆無でしょう。その時代の PC では、Windows は使い物にはなりません。今 Windows を使っている人は、皆 新しく買い換えた筈です。

Windows 化の動きと、ハードウェアの高速化 及び低価格化、そして マーケットの拡大。

この3つが 絶妙なバランスで同時進行し、かくも大きな動きになったのだと思います。

もし「Windows を 従来のパソコンでは動かないもの」として開発 販売していたら、これほどの潮流にはならなかったかもしれません。

確かに当時「Windows を動かすためには 386 以上の CPU と、8M 以上の RAM が必要」と言われてきました。当時 標準で 1M の RAM しか搭載されていない時に、8M の RAM は非常に高価なものでした。

それでも何故か「同じ PC 98 で動く」ことに安心感があったのだらうと思います。

もし5～6年前「PC 98 では Windows を動かさない」決定を誰かがしていれば “黒船到来” は、2～3年遅くらせることが出来たのではないかと思います。

なぜなら、我々日本人にとって 98 で動かないということは「Windows の為にはわざわざ新しいマシンを買う」ことであり、これはマックを買うのとよく似ています。

我々日本人は これには反応しなかった訳です。

結果としては新しくパソコンを買うはめになりましたが、それはあくまで結果で、その時は同じ 98 で動くという安心感があったのです。

つまり Windows も 98 で動かなければ、これほどの早さで普及しなかったのではないかと思います。

Windows 化にともない、業界規模 マーケット規模が大きくなりました。

パソコン雑誌も異常なほど増え、私も知らないような雑誌が書店に溢れています。

今 秋葉原に行くと、賑わっているのはパソコンショップばかりで、昔からの大型家電店も軒並パソコン売場に衣がえしています。

パソコン業界の流れが解ると、ビル・ゲイツの力の大きさも解ってきます。

もし デジタル・リサーチ社の CP/M が パソコン OS の覇権を握っていたら、或いは、マイクロソフト社の社長がビル・ゲイツでなかったら、現在のパソコン業界は 今とは全く違う姿になっていたらうと思います。

振り返ってみると、我々は この 10 年間 “OS には何を使おうか” という検討を、しないで済んできました。

多くの方は、“MS-DOS” と “Windows” 以外にもパソコンの OS が存在するということを知らないのではな

いか とさえ思います。

その代わり 今我々は、どのメーカーのパソコンを買おうかと考えます。

これも Windows 化 つまりビル・ゲイツのおかげです。

91年8月 No23 のレポートでも「激変する」旨を書きましたが、その後の5年間で業界地図がまさしくガラリと変わってしまいました。

そしてこの激動の時代はもうしばらくは 続くと思います。

今 最もエキサイティングな業界で仕事出来ることに 喜びとそれにまさる緊張を感じます。

二ノ宮